



視認性や装着感が良いのはもちろん、精度の高さと抜群の仕上がりがシンプルなスタイリングによって一層引き立っている。左は4月に発売を開始するレディースのメインモデル

独自の開発構造“MORE*”を搭載したこの時計は、全ての外装部品が分解できるために、再研磨・再組立ができる。万一の故障でも最少の部品交換で対処することができる。それは、全ての外装部品が自社内で一貫して製造しているからできることである。また、部品の供給も止まることもない。特許10件、実用新案3件、意匠出願1件を申請するなど、その技術力は、日本のみならず、世界的にも高い評価を得ている。

*MOREとはMinase Original Rebuilding Equationの頭文字を並べた造語で、ロングライフを目指し進化を続ける「独自の再生方式」という意味を表している。



知りたい! 秋田 の とっておき

01

〈羽後町〉協和精工株式会社

雄勝郡羽後町林崎字三ツ盛34-1 TEL0183-62-4566 www.kyowaseiko.co.jp

羽後町から匠の技を全国へ。 百年語れる腕時計。



時計は湯沢市にある同社皆瀬工場にて製造。コンピュータ制御よりも優れた「職人芸」で研磨の作業が行われる。

あきた企業活性化センター 支援事業のお知らせ

**ビジネスインキュベーション
総合支援事業（創業支援補助金）**
新規創業する方に最高200万円を補助

県内に事業拠点を置き、優れたビジネスプランにより創業する方に対し、創業に要する経費と新規雇用に要する経費の一部を補助します。

【補助対象経費】

- 事業拠点費、人材育成費、宣伝広告費
- 補助対象経費の1/3以内で100万円が上限
- 人件費
- 補助対象経費の1/2以内で100万円が上限

【募集受付期間】

第2回/8月1日(水)~8月31日(金)
第3回/12月3日(月)~1月7日(月)
募集受付期間前であっても、計画書作成等に関する相談は随時受け付けています。

【財】あきた企業活性化センター

秋田中山王三丁目1-1
創業・経営革新推進担当
TEL.018-860-5701
FAX.018-860-5704

企業の生き残りの危機が忍び寄っていた。この危機を乗り越えるために、自ら時計メーカーとして再スタートし、自社ブランドの高級腕時計の製造の道を選択することになったのだ。そのコンセプトとして取り組んだのが、「百年後も語れる腕時計」。154個に及ぶ外装部品を、寄せ木細工のように組み合わせるアイデアに至ったが、開発の道程は困難を究めた。最小部品で幅約5mm・厚さ約2mm。しかも、曲面が多い精密の機械の腕時計には、手作業で10ミクロン

以下の研磨という非常に高い加工精度が求められるのだ。その困難を克服したのが、同社が培った技術力であり、類い希なる職人の匠の技、そして社長を始めとした社員の情熱であった。

秋田県工業技術センターと東京電機大学の協力を受けて、世界でも例のない最小刃径0.1mmのcBNエンドミル(切削加工に用いる小径回転工具)を平成14年に日本で初めて実用化するなど、県の設備貸与事業やアドバイザー制度等の支援事業・技術サポートの他、国の補助金等を受けながら技術力を蓄積していった。その成果を活かし試行錯誤を重ねた結果、外装パーツが、全て分解、再研磨、そして、組立が可能な「MORE構造」と呼ばれる世界初の革新的な腕時計「READY」が誕生したのである。

1個の値段が40万円という高級時計だが、平成17年11月の発売以来評判が評判を呼び、すでに50本以上を販売。完成までに多くの時間を要し、一ヶ月の生産量は僅か5個というハンドメイドの少量生産。そのため引き渡しまで半年待ちの状態となっている。

何世代にもわたり受け継がれるような優れた商品を製造する企業が、私たちが生活する秋田にあることを誇りに思いたい。

百年を過ぎても新品同様の深い輝きを保ち、正確に時を刻む腕時計。そんなとつもない夢を現実のものとした企業が秋田県にあった。

腕時計は長年使い続けられ使うほどに愛着を持つものが宿命。この傷を修復し再生するには細かなパーツまで分解する技術が求められるが、それは不可能に近いこととされていた。この困難なテーマに、企業としての再生をかけてチャレンジしたのが協和精工だ。

同社は日本でも数人しかいないという匠の技を究める研磨技術者がいる精密切削工具メーカーであり、時計部品製造のメーカーとして高い評価を受け成長を遂げてきた。しかし、メーカーの部品発注が海外にシフトするなかで、同社の売上は減少し、企業の生き残りの危機が忍び寄っていた。

秋田県産業経済労働部商工業振興課 TEL.018-860-2246

cBN(cubic Boron Nitride) 立方晶窒化ホウ素はダイヤモンドに次ぐ硬さを持つ物質で、またダイヤモンドに比べて熱に強く鉄との反応性が低いという性質を持つため、その粒子を超高圧下で焼結したものは、硬質材料の切削に留まらず鋼や鋳鉄の超高速切削といった分野でも用いられる。しかし、刃先部分に使用するその素材の表面仕上げが難しいことから、微細加工の実用化は困難といわれていた。